



## 東京2020大会組織委員会と 明治学院大学の連携のもと学生有志が立ち上げた団体 『MGオリンピック・パラリンピックプロジェクト実行委員会』代表 大会前から期間中まで大学内外で様々な活動を実施



### Q 「外国人おもてなし語学ボランティア」 育成講座受講のきっかけを教えてください

私は団体の中で国際交流に力を入れた部門に所属していて、具体的にコミュニケーション力を伸ばせるような講座を受講してスキルアップをしたい、と思ったのがきっかけです。周りのメンバーも、「国際交流をしたいけれど自分の語学力に自信がない」「ちゃんと学べる機会がほしい」という声が多かったので、みんなで受講しました。

### Q 講座で学んだことで 役に立ったことはありますか

英語の授業や教科書の学びでは得られない、実際のコミュニケーションの方法を学びました。午前中の講座のあと、午後は品川駅でおもてなしを実践するボランティア活動を行いました。講座で学んだことを活かして話しかけると、外国人の方も気さくに話をしてくれました。

一番役立ったのは、「こちらから話しかけよう」という勇気が得られたことです。講座では、声のかけ方や英語のフレーズが浮かばないときどうするかなど、グループワークやペアワークを通して学ぶことができました。東京2020大会期間中、いろんな国の方に対応してみて、ジェスチャーを使うことやくじけずに話しつづける勇気は、講座で学んだことが活きたかなと思っています。



### Q 東京2020大会中は どのように過ごされていらっしゃいましたか

オリンピック期間中は、団体のメンバーとして、IOC(国際オリンピック委員会)の方々と一緒に大会の運営に関わるボランティアをしました。私が対応した方々は、アメリカ、フランス、中国と国籍がバラバラで、英語で会話はできるんですが、母語が違うので、自分の英語が伝わっているのか、伝わってなかったらどう伝えようか、考えながら活動していました。

大会関係者は自由行動が制限されているので、自分と接しているときぐらいは何か日本の良さが伝わるといいな、という気持ちで関わっていました。印象に残っているのが、ある方から「ちょっとおなかすいた」って言われて、手もとにたまたまチョコレートを持っていて、「これで我慢してくれ」って渡したんですね。そしたら「日本のチョコレートすごくおいしい」って言ってきて。その日以来、他の方にも「おいしいチョコレートくれるらしい」って噂が広まって。それからは、気づいた場面でお渡ししていました。ちょっとしたプレゼントですが、ものすごく喜ばれましたね。

パラリンピック期間中は、選手村でマリ選手団の団長さんのアテンドをしました。その方はフランス語の話者で、英語を話せない方だったので、すごくコミュニケーションに苦労しましたが、ジェスチャーで思っていた以上に対応できることに気づきました。

最後に、「これまで関わってきたボランティアの方で一番良いアシストだった。本当に助かった」ってとても感謝されて、言葉が通じなくて、全然おもてなしできていないんじゃないかと感じたりもしましたが、自分が精一杯やっている姿勢が伝わっていたんだと知り、うれしい気持ちになりました。



## Q 外国人へのボランティア活動は 続けていきますか

もちろん、こういったボランティアは続けて行きたいと思っています。日常の場面でちょっと困っている人がいたら、外国人の方に限らず日本の方でも声をかけていきます。街にはいろんな方がいて、それぞれ違う場面で困りごとはあると思うので、自分にできることをお手伝いしていきたいです。

## Q 今後は団体での活動はどうなるのでしょうか

東京2020大会のために結成された団体なので、これまでの活動をまとめたり振り返ったりして、一応年内には解散という予定です。もう団体の形を維持しなくても、メンバーがいろんな経験をして、ボランティアをする精神とか、やりたいたいことを見つけて関わっていく精神が、それぞれ身についたなと感じています。今後、各々の経験がどんな場面、状況でも活かされるんじゃないかなと思っています。

## Q 外国人おもてなし語学ボランティア以外の 経験を教えてください

高校生の頃から自分でボランティアを企画したり、外部の活動に参加したりしてきました。路上生活をしている方への炊き出しのボランティアや、大学のプログラムの一環でインドに行って、現地の小学校や孤児院の子供たちと交流をするボランティアなどを行いました。インドでの経験で、労働とか力仕事をして助けるだけでなく、心を通わせる、交流することも十分にボランティアになると気づきました。

高校1年生のときに、サイクロンで被災をしたバヌアツ共和国のニュースを見たのですが、中学生のとき、バヌアツの近くから来日している方との交流経験があったので、自分にできないのかなと思い、同じような思いを持っていた友人と団体を作りました。

最初は、募金活動をしていたんですが、募金を呼び掛けるからには、「なんでバヌアツという国を支援しているのか」の説明ができるように、いろいろ調べ始めました。バヌアツの観光大使をしている日本人の方と接点をもつことができ、バヌアツの魅



力について教えていただく機会もありました。たまたまそのすぐあとに日本でビーチバレーボールの大会が開かれて、そこにバヌアツの選手が参加していたので、彼らの応援や、試合を見に来ている日本の方にバヌアツの魅力をお伝えしました。このように、何かやってみようと思ったならなんらかの行動を起こすこと、それがボランティアの最初の大きな一歩になったと思います。

## Q ボランティア活動の魅力はなんですか

ボランティアの場面で必要とされる力って座学だけでは身につかない。机に向かって勉強しているだけでは得られないことがたくさんあって、ボランティアを通して得た経験が、のちのボランティアだったり、自分のキャリアだったりに繋がってくると思います。

何故ボランティアをするのか、どういう思いでボランティアをするのか、正解とか間違いとかはないと思うので、私は自分を成長させたいって気持ちでボランティアをしています。

## Q 最後に読んでいる皆さんへ ボランティア活動へのアドバイスをください

知りたいと思ってアンテナを張ると、意外といろんなところに情報が落ちています。それまでは興味がなかった分野でも、ちょっとボランティアをやってみようかな、という気持ちで一度参加してみるのもありだと思います。参加してみて本当の自分の好みができることがあります。参加する中で、「このボランティアは自分の体力が追い付かないな」とか、「活動自体は地味だけど、自分は結構楽しめるかも」というように判断すればいいのかなと思います。

## メッセージ

Message

また外国人の方にボランティアや交流できるようになったら  
日本を代表する気持ちで一緒に活動して行き  
ましょう！

